

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7期第2回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802 (直通)		
開催日時		令和4年11月4日(金) 10時~12時		
開催場所		緑区合同庁舎4階集団指導室		
出席者	委員	22人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	17人(区長、副区長、区政策課長、他14人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民会議のテーマ設定について</li> </ul> 3 その他 4 閉会		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言)

### 1 開会

緑区役所区政策課長の進行により、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開の確認を行った。また、傍聴希望者の報告を行った。

### 2 議題

牧瀬会長の進行により、議事が進められ、事務局から資料に基づき、説明を行った。

・区民会議のテーマ設定について

<意見交換等>

#### ○池田委員

第1期から第4期までは、区ビジョンの策定や、その実現に向けてというテーマ設定の下で進めてきた。第5期になって、緑区基本計画の策定、第6期は基本計画に定めた中山間地域の振興をテーマとした経緯がある。第7期については、基本計画に定められた内容を考慮したうえで、テーマ設定をするべきなのか。

また、緑区役所単独で実施できる事業はかなり限定されている。考え方としては、市レベルで実施されている事業であっても区や地域によって、実施の実情や課題はかなり違いがある。そのような意味では、あまり緑区単独で実施できるかどうかにかかわらず、市レベルで幅広く行われている事業の中から、緑区の問題を絞り込む考え方でテーマ設定に取り組むほうがよいのか、事務局で説明いただきたい。

#### ●事務局

区ビジョンや区別基本計画にしても、中期的な視点で区の目指すべき姿を意見を出していただきながら作成したものになる。現在は、令和2年度から区別基本計画ができていますので、これに基づき区民の目指す姿に取り組んでいく必要があると考えています。

市全体で取り組むべき課題であっても、横断的な視点で取り組むべきものがあると考えています。例えば、第6期の中山間の振興をテーマにご審議いただいて、市長に対して提言書を提出した。市でも重要施策は縦割り組織ではなく、横断的に取り組むべきだという考え方を持っている。市の総合計画の中では、分野横断別で取り組む事案として、「中山間地域対策」、「少子化対策」、「雇用促進対策」の3つを掲げている。個々の施策に関して、縦割り指向ではなく全庁的に取

り組む視点を持っている。全庁的な視点で取り組むべきものについては、緑区としても取り組んでいきたいと考えている。

○米山委員

中山間地域農林業魅力体験事業について、何回開催して、実際に農林業に携わってみたいという方はいたのか。

日本の人口は、将来的に三分の一になってしまう。様々な自治体で定住者を増やそうと魅力的な事業を実施している。人口は増えないということを前提にまちづくりは、大きな視野で進めていくべきではないかと考えている。

●事務局

中山間地域農林業魅力体験事業は、夏休み等で開催したところ、定員を超える申し込みをいただいた状況である。一方で、林業の担い手は簡単にはいかないところがあり、長期的に進めていく事業になる。

○吉野委員

交通の問題について、橋本地区と津久井地域では状況が異なる。そういう面では、コミュニティを考えた細かい交通網の整理が必要だと感じている。

○佐藤（鉄）委員

11月2日のBSテレビ東京で藤野に住む外国人が出演した。この方が、世界40か国を住んでみて、最後の住まいと定めたのが藤野であった。中山間地域を含めた緑区の魅力をどう認識して、発信していくのか明るい話題を議論していきたい。

◎牧瀬会長

対策よりも政策について議論することで、前向きな話題が出て、活発な議論ができると考えている。対策は問題があり現実対応、政策は未来志向で進めていく。

○齋藤委員

高齢者の夫婦がだんだん増えてきて、4軒のうち1軒が高齢者夫婦となっている。城山でも高齢化になったら、ここでは暮らしていけないという話が出てくる。以前は、都市集約で住宅を一つのところに集めてしまおうと話をしてきたが、そうすると農業を捨ててまで都市集約するのは非常に難しい。高齢化でも暮らしていける地域づくりをどう作っていくのかを考えていきたい。

○熊谷委員

コミュニティ・連携の部分の「旧4町という意識がいまだに強い」というところで、旧市域と合併した後の4町の区域がなかなか融合されていないのではないかと思う。まちづくり懇談会の中でも、若い人でも先祖代々の土地があり、仕方なく住んでいるという意見も出ていた。そういう中で中山間地域と市街地の融合性を図って、緑区全体で魅力ある緑区をつくっていきたいと考えている。

○立川委員

私も11月2日のBSテレビ東京の番組を拝見した。その中で、どこかに行きたいとなった時に、公共交通機関ではなく、地域の人にメッセージを投げかけると誰かが車を出してくれるという内容が盛り込まれていた。私が住んでいるところも乗合タクシーを検討しているが、現実問題いつになるか分からない話なので、車が無い方とは、助け合いをしている。若い方が住みたい・住める環境を作るのを考えていくと、交通手段や買い物はどうするのかという議論が付いてくると思う。

ここには、美味しい食べ物もあり、足を延ばせば山もあるというような魅力を上手く発信していくことや、あるいは交通問題などの足りない部分を議論していきたい。

○河津委員

環境や地域の魅力をPRすることは、すごく大事なことだと思っている。移住・定住に結び付けるPRをするわけだが、したところで来た人たちが住みたいかと思うと住みたい環境が相模湖にあるわけではない。乗合タクシーや子育て支援などを全体的に整理していかないと結果として先に結び付かないと考えている。テーマとして、的は絞らずに、いくつかの視点で話を捉えた方がいいのではないかと思った。

◎牧瀬会長

的は絞らずに、いくつかの視点で話を捉えた方がいいのではとのことだが、例えば今回のような意見交換をあと1、2回して、第7期の後半から1つに絞ってやっていく考えもありうるか。

●事務局

第7期の活動期間は2年間なので、そのようなやり方でも問題はありません。

○角田委員

若者たちが戻ってきてほしい、逃がさないまちにしたいと考えているが、その前に住みたいかというテーマが大事になる。

また、教育の分野で「公立学校で特色ある教育に取り組む」とあるが、市のPTAからも教育委員会にも発信しているので、この項目に関してはここで取り上げなくてもいいのではないかと思った。

◎牧瀬会長

若者たちが戻ってきたいためには、今、何が欠けていると思うか。

○角田委員

楽しむために少し遠くまで行かないといけないなど、何をするにも距離が遠いということだと思う。そのあたりを整理していけば、少しずつでも良くなると考えている。

○星委員

1回目の会議でも、できるだけ前向きな明るい展望が開けるような会議になればいいと思うと発言したが、緑区の魅力をお互いに確認して、それをどう発信していけばいいのかということテーマにしていけばいいと思う。

少子高齢化や産業、交通問題、若い世代に住んでもらう問題にしても全国的な課題であるため、難しいところがあると思う。JAXAの施設が相模原市にあるが、これ一つとってもPRが足りないと感じている。第6期の議論を引き継ぐ意味でも、緑区の魅力についてをテーマに設定すればいいと思う。

○日高委員

今、緑区に住んでいる人たちは仕方なくではなく、好きで住んでいる人たちもいる。コロナ禍や少子化の問題の中で今を生きるのに精一杯の人たちがいるなかで、魅力を伝えることも大事だが、外に目を向けて、そういったところに時間とお金を費やしていくというのも、住んでいる人たちの課題を解決してほしい思いとずれてしまうのではないかと思う。

◎牧瀬会長

例えばどんなことに目を向ければよいと思うか。

○日高委員

どの世代でも交通面が課題だと言っている以上、それに目を向けるしかないの

ではないかと思う。

お祭りとか地域の活性化の部分に力を入れても、嫌なこと、不満なことを抱えているのであれば、他に目を向けているのでは、住んでいる人たちの信頼を得られないのではないか。

#### ○森委員

I T関係が急激な進歩を遂げている最中である。北欧三か国ではロボット化された宅配便の運行システムが実用化されている。I Tをうまく活用できるような道路設計などのまちづくりを展開していけば、買い物が不便な地域などの困った生活もなくなることにつながるのではないか。

コミュニティが大切であると思うが、北欧では、例えばサウナがいたるところにあって人が集まってきてコミュニティの場になっている。

日本にもコミュニティの場だったり、ロボットを活用した生活ができるように、そんなまちづくりそのものを変えていくことも進めていければと思っている。

#### ◎牧瀬会長

相模原市にもロボット特区として指定を受けているところがあり、そういったところから動きが出てくるかもしれない。

#### ○池田委員

緑区というのはまとまりがない、つまり、区民としてのアイデンティティがまだない、ということで、それが形成されないと住みたいという気持ちがなかなか湧きあがらない。大きなテーマとしてはそのあたりとして、コミュニティ・連携とするのがよいのではないかと感じた。

コミュニティ・連携の中で一番大事なのは区民としてのアイデンティティをつくり直す、新たにつくるというところで、それ以上に、区内の各地区間の交流や各地域の実情の情報共有がもっと活発にできるような方向に持っていく、コミュニティ、まち、住民間の関係性の再構築、といったことを大きなテーマにする必要があるのではないかと思う。ただ、そういう大きなテーマ自体を議論していくのは抽象的であり、より具体的なサブテーマを設けて掘り下げていくテーマ設定の在り方が必要ではないかと思う。

緑区民のアイデンティティを形成して、お互いの地区間の実情を情報共有したり、交流を深めたりする意味では、交通の問題は非常に大きいと思うし、住みたいという気持ちを湧きあがらせるに当たって障害となる要因のかなり大きな部分になるとすると、交通だったり、これからの観光、つまり、地域の魅力発信、外

国人の人でも喜んで住んでもらっているという実績があったり、宇宙やロボットにつながるようなIT・最先端の可能性を秘めたまち、そういったものを緑区内で発信し、住民で共有していくためにはどうしたらよいかというサブテーマを設定してもよいのではないか。

大きなテーマとして、コミュニティ・連携、サブテーマとして交通や魅力ある地域づくり、その魅力の発信といったような形でテーマ設定していくと、多くの委員の考えを取り込む方向でテーマ設定できるのではないか。

#### ◎牧瀬会長

緑区として一体感がない、というのが各委員で共通するところだと思うが、一体感・コミュニティがないところをどうしていくかというところである。一体感がない、コミュニティがない、だと、抽象的なので、まず、情報共有、情報発信、地域の魅力を出していくことで、各地区の互いの良さを認識していくのはどうか。また、地域の魅力発信、共有は、定住にも観光にもつながっていくのではないか。

交通についても2、3名の委員から意見があったので、そこをどうしようかと考えているが、私見として地域の魅力を発信したからといって交通問題を解決できるわけではない。交通については庁内横断的な会議で検討が行われているということで、そこで方向性が出ないと進んでいけないと思う。また、ムーブスという武蔵野市が2000年から運行しているコミュニティバスの取組事例があるが、人口が一定数存在しているのにも関わらず、財政的には赤字の状況であると聞いている。公共交通はお金がかかるものである。また、行政のみならず、むしろ民間主体となるものであり、限界があるのではないかと感じている。

#### ○白水委員

相模湖に住んでいる人と橋本に住んでいる人とが同じ問題を共有するのは難しいと思った。

緑区が持つ多様性を活用するにも、コミュニティは重要だと思う。

都会の方と田舎の方、若者と高齢者、在住者と移住者、地域に住む人と旅行者といったような交流を深めていくと発展性があるのではないかと思う。

例えば、高齢者は安心安全も大事だが生きがいが一番大事ではないかと思う。若者と一緒に何かやることが生きがいにつながるとし、若者も高齢者の経験や知恵を学ぶのが必要なことだと思う。

元々住んでいる人は不便と感じているが移住者はそこも楽しんでいるので、在住者と移住者とが意見交換する場があれば移住者がどういう地域の魅力を楽しんでいるかを共有することで、地域として活性化につながるのではないかと思う。

外国人旅行者にとっては、何か作るのも大切だが、そこに住んでいる日本人と交流するという体験も大切で、そこもコミュニティだと思う。

交通については確かに不便だが、もっと不便な地域は全国的にあるし、長野でオンデマンドバスを旅行者として活用したことがあるが、そういったITを活用した旅行者への環境づくりをしていければと思うし、コミュニティがあれば地域の人に送ってもらうようなことも考えられるし、ポイントはコミュニティではないかと感じた。

#### ○松平委員

資料のこれまでの成果を見るとずっと同じようなテーマに取り組んでいると思ったので、目に見えるような成果を作り出していきたいと思っている。

橋本駅付近に住んでいるため、緑区の中山間地域の方々の課題はまるっきり分からない。

意見が出ているとおりに緑区としてのコミュニティ力をあげていってほしいと思う。前回、緑区の独自の特色のある公共交通のパスの話提案したが、橋本駅周辺から相模湖周辺に遊びに行ったり、その逆の動きがあったりと、それらを通じて、お互いの認知力が高まるのではないかと感じている。

#### ◎牧瀬会長

ここまでの意見をまとめると、大きなテーマとしては、コミュニティの形成と活用ということで、大前提として緑区の一体感の醸成がある。

ただし、コミュニティの形成・活用では抽象的なため、まずは6地区の情報の共有化が重要であって、共有した上でその魅力を発信していく、それによって来訪者や定住者の増加につながられるのではないかと。

次回以降、具体的に意見交換していきたいので、まずは6地区について意見を出し合って共有化し、その上で地域の魅力を発信する、発信する際も観光者向けの発信や子ども向けの発信などターゲットによって中身も変わるのでそれも具体的に検討していきたいと思っている。

まずは、地域の情報共有をやっていき、それができた上で地域の魅力発信、魅力を発信していくための方策を検討していくような形で進めていきたい。交通についても、市全体として庁内の議論がまずあると思うが、緑区ならではの問題もあるのでどこかで議論していければと思っている。

次に、具体的な進め方について、事務局から過去の例を提示してもらい、それに対する意見を伺えればと思う。



●事務局

第6期もそうだが、グループワークで現状の情報共有を図った上で、課題やそれに対する施策を考えていった事例があり、今回もそのような形で進めていくのはいかがでしょうかと思う。

◎牧瀬会長

第5期、第6期もグループワークで意見を出し合い、まとめていって提言書を作成した経過がある。今回も情報共有と具体的な事業提案につなげていければと思う。

○佐藤（鉄）委員

その流れでいいと思うが、同じ地域に住んでいる方で違った感覚を持っていたりもするので、それぞれの立場を考えていただき、うまくミックスしたグループ構成にさせていただくとグループワークが効果的になると思う。

◎牧瀬会長

過去に現地視察を行っていたと思うが今期はどうか。

●事務局

検討はしているが、新型コロナウイルス感染症の感染状況から今年度は難しく、また状況を見ながら来年度に実施を検討できればと考えている。

◎牧瀬会長

公共交通が課題となっているため、資料2にある市内横断的な会議での議論について次回情報提供いただきたい。

3 その他

次回会議は、令和5年1月26日（木）午後2時からの開催を予定

4 閉会

## 相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	森 誠壽	橋本地区まちづくり会議 副代表	出席
	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議 代表	出席
	齋藤 信夫	城山地区まちづくり会議 代表	出席
	熊谷 弘	津久井地区まちづくり会議 代表	出席
	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議 代表	出席
	○宮野善三郎	藤野地区まちづくり会議 代表	出席
関係団体	松井 光臣	相模原市地区社会福祉協議会緑区連絡会 会長	出席
	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事 (津久井地区民生委員児童委員協議会 会長)	出席
	角田 健	相模原市P T A連絡協議会 副会長	出席
	佐伯 守章	相模原商工会議所 青年部 副会長	欠席
	小野沢健二	津久井地域商工会連絡協議会 会員 (相模湖商工会 事務局長)	出席
	吉野 賢治	公益社団法人相模原市観光協会 代表理事	出席
	村上 翔一	公益社団法人相模原青年会議所	出席
	山崎 勇貴	公益社団法人津久井青年会議所 理事長	欠席
	佐藤 鉄郎	相模原市既存住宅リフォーム・改築推進協議会 事務局長	出席
	星 和美	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ 理事	出席
米山 敦子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら 副代表理事	出席	
学識経験者	◎牧瀬 稔	関東学院大学法学部 准教授	出席
	池田 寛二	法政大学社会学部 教授	出席
区民	白水 敦子	公募委員	出席
	松平菜保子	公募委員	出席
	日高 彩希	公募委員	出席
民間事業者	茂手木祐介	相模湖リゾート株式会社 代表取締役社長	出席
	佐藤 賢策	東日本旅客鉄道株式会社橋本駅 駅長	出席
	中原 正貴	神奈川つくい農業協同組合 経済部 営農経済課長	欠席

◎は会長、○は副会長